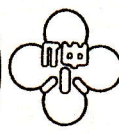


平成 27 年度
NO. 12
1 月 29 日発行
2 月号

仲町だより



なかよく
まなぼう
ちからいっぱい
練馬区立仲町小学校

つぼみから花へ

校長 矢島 直行

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」といいますが、早いもので年が明けてから1か月が過ぎました。子供たちの登校日数は残すところ、修了式、卒業式まで35日余りです。

先日、東京に大雪があり、校庭は一面白銀の世界となりました。本校の教職員も通勤に影響がありましたが、出勤することができた教職員はすぐに子供たちが安全に登校できるよう歩行路の除雪にあたりました。誰かが何かをしてくれるのではなく、自分が子供たちのために何ができるのかを考え実践すること、全教職員が一体となり、主体的に子供たちのために協力的な指導で取り組んでいくことが大切であることを感じました。

校庭にあります梅の枝にはつぼみがつき、中から花びらが今にも咲きそうに顔をのぞかせていました。毎日の寒さの中にあっても、草木も春を迎える準備を整えています。

登校する子供たちの姿からも季節を感じることができます。白い息をはきながら登校する子供、手袋やマフラーで寒さに備える子供、雪に感動する子供など、子供たち一人一人が季節を感じています。

2月4日は「立春」、19日は「雨水」です。立春は文字通りこの日から春を意味し、雨水は雪が雨に変わり、雪や氷は溶けて水となる、忍びよる春の気配に草木がよみがえる時期だということを表しています。四季に恵まれたこの日本、子供たちは外で遊びながら季節を肌で感じています。私たち大人も「四季」による季節の移ろいを身体全体で感じていきたいものです。

さて、学校では、2月から3月の卒業式まで6年生を中心とする行事が続くとともに、4月に向けての取り組みが行われます。3年生のクラブ見学、5年生と6年生の送別スポーツ大会、6年生の開進第四中学校の出前授業、6年生を送る会、感謝の会など、6年生を中心に交流を深めたり、6年生の今までの活動を5年生が引き継いだり、これまでの活動に対して感謝したりと様々な行事が並んでいます。6年生にとっては小学校生活最後の思い出づくりでもあります。また、5年生には次は自分たちが最高学年となる自覚をもつ機会ともなります。

枝に大きなつぼみがつき、春に花を咲かそうと準備をするのは草木だけでなく、学校においても同じことがいえます。教職員は、子供たちの1年間の成長に目を向けるとともに、教育活動を振り返り新年度への準備に取り組んでいきます。

また、子供たち一人一人が学習、生活の学年のまとめをしっかりと行うなど、春に向けて頑張る子供たちを教職員が一丸となって4月の進学、進級に向けての準備に取り組んでまいります。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。